

1. 目的と位置付け

- 第2編「交通戦略」では、第1編「基本的な考え方」で示す「計画理念・基本方針」や「交通体系・各交通モードの基本的考え方」を受けて、**短・中期の交通施策等を体系化（パッケージ化）**
- 今回の見直しでは、**2019年度から2030年度までの概ね10年間**の交通戦略を示す。

≪交通戦略の計画期間≫ 2011年度～2020年度 ⇒ 2019年度～2030年度に更新

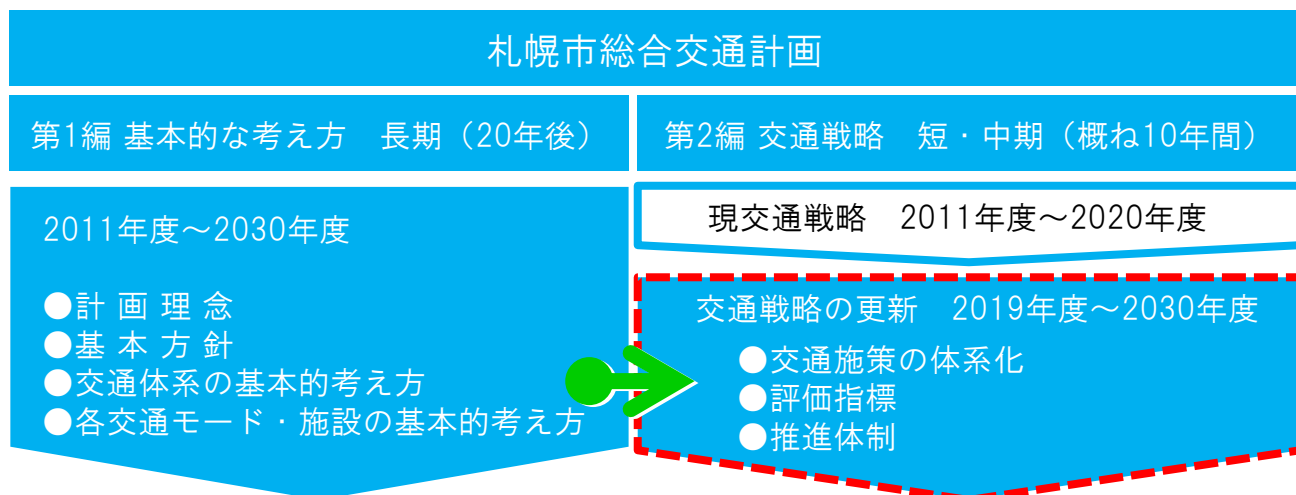
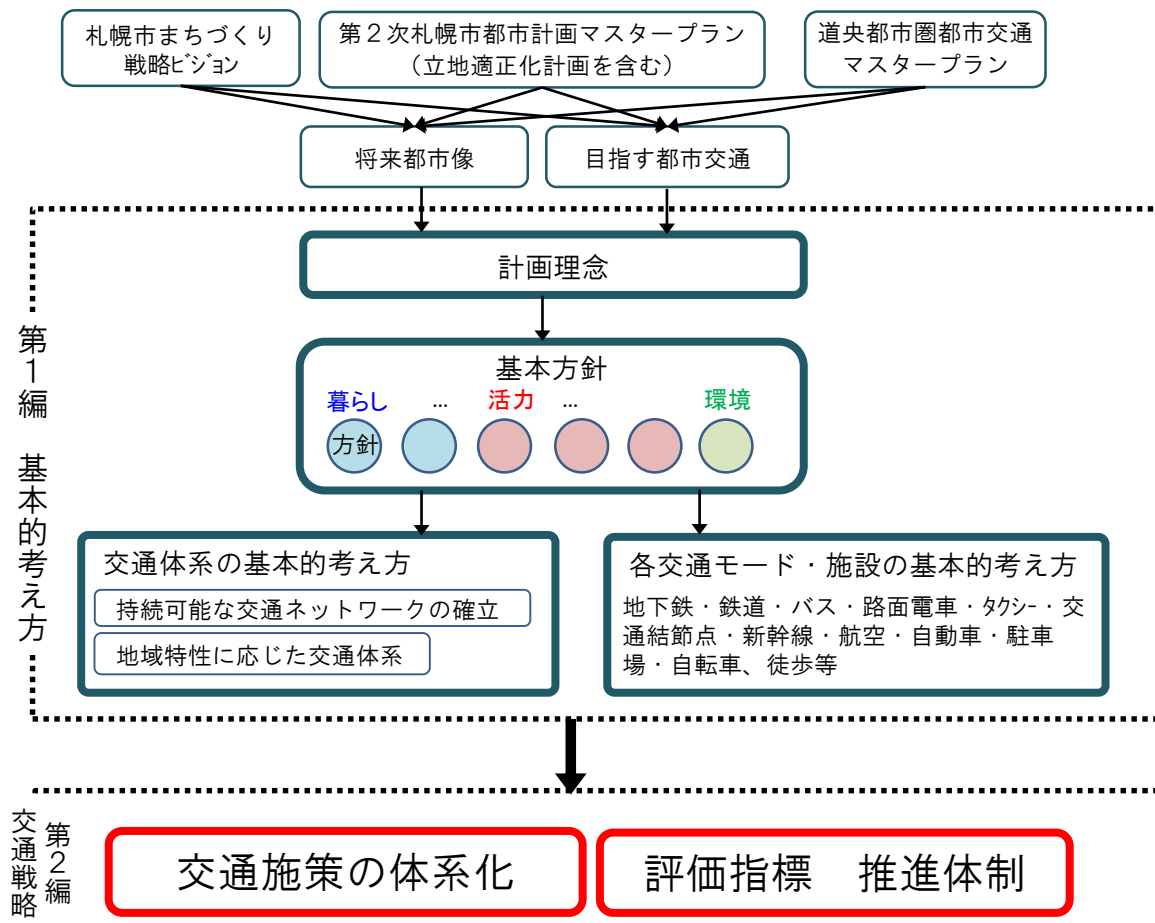


図 全体概念図



2. 交通施策の体系化の考え方

- 6つの基本方針ごとに、**短・中期における交通施策を体系化し、実施目標を掲げ、関連する交通施策・事業を位置付ける**とともに、**評価指標を設定**することによって、より効果的・効率的な事業展開を目指す

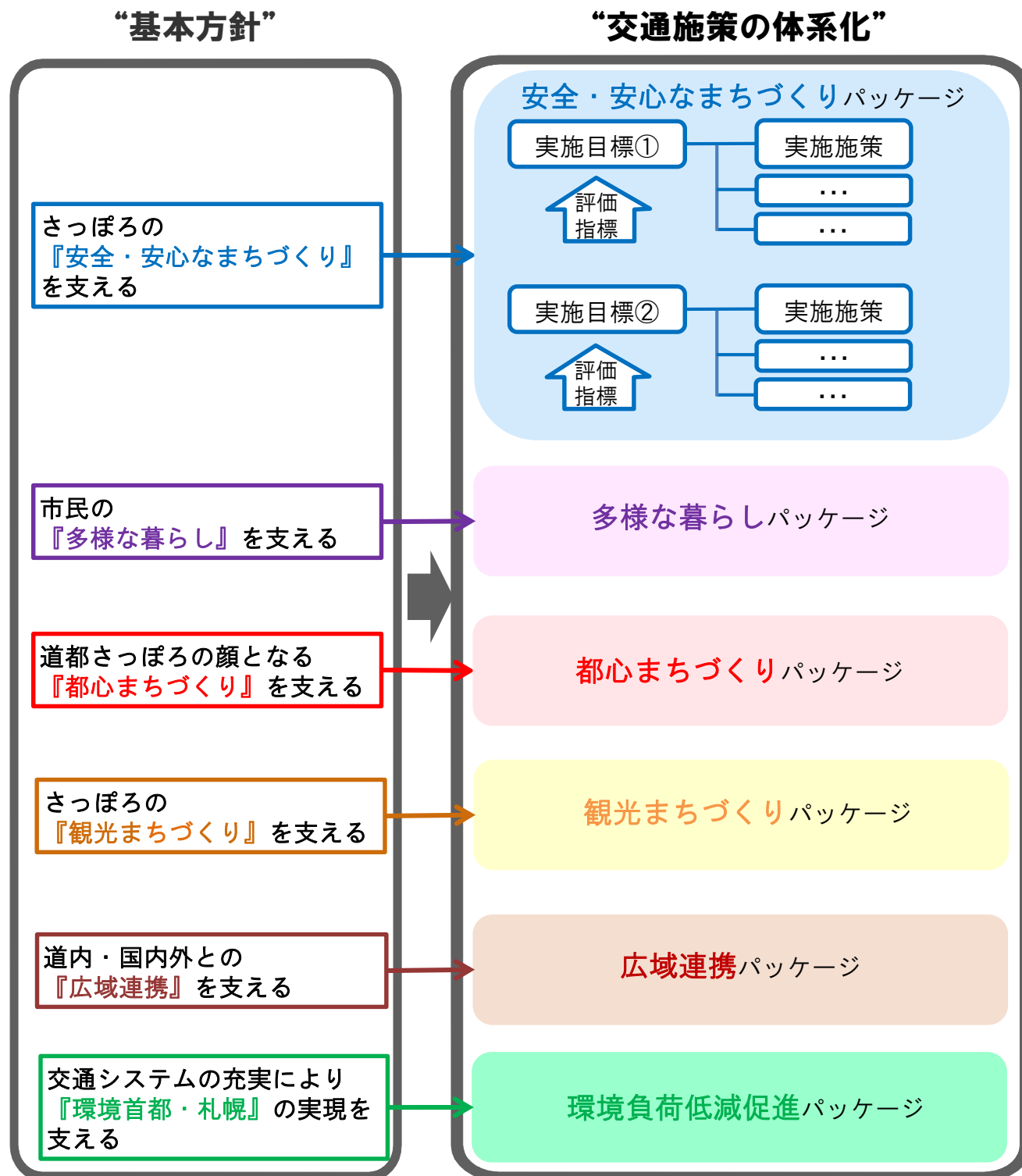


図 体系化（パッケージ化）のイメージ

交通戦略：交通施策の体系化

3. 交通施策の体系化

安全・安心なまちづくりパッケージ

■ 基本方針

一年を通じて安定した生活・社会経済活動を送ることができる信頼性の高い都市の構築を目指し、交通基盤の適切な維持・保全や更なるバリアフリー化、効果的な交通情報の提供等により、災害にも強く、誰もが安全・安心な交通環境の形成を図ります

■ 実施目標①

災害に強い交通環境を実現するため、道路や橋梁等の交通基盤の耐震化や適切な維持・保全を行うとともに、効果的な交通情報の提供等の取組を進めます

■ 主な実施施策

- ▶ 公共交通施設の耐震化の推進（橋梁、バスターミナル、JR・地下鉄の高架部）
- ▶ 緊急輸送道路の整備
- ▶ 拠点等の幹線道路における無電柱化の推進
- ▶ 都心部における帰宅困難者対策（地下歩行空間等の一時滞在施設の機能強化等）
- ▶ 災害時等における情報提供の充実



橋梁の耐震化（橋脚補強等）



無電柱化の推進（西5丁目・樽川通）

■ 評価指標

- 緊急輸送道路における橋梁の耐震補強整備率

■ 実施目標②

一年を通じて誰もが安全・安心に利用できる交通環境を実現するため、交通施設や車両のバリアフリー化の取組を進めるとともに、道路の適切な利用環境の確保を図ります

■ 主な実施施策

- ▶ 歩道バリアフリー化の推進
- ▶ 公共交通施設のバリアフリー化の推進（地下鉄駅、JR駅、バスターミナル等）
- ▶ 路面電車の低床車両導入、軌道施設の機能充実（電停バリアフリー化等）
- ▶ ノンステップバスの導入推進
- ▶ 自転車通行空間の明確化（路面標示設置、道路空間再配分等）
- ▶ 冬期歩道のつるつる路面对策の推進



歩道のバリアフリー化



路面電車の低床車両「シリウス」

■ 評価指標

- 歩道バリアフリー整備延長

交通戦略：交通施策の体系化

多様な暮らしパッケージ

■ 基本方針

利便性の高い都心・地下鉄駅周辺などでの暮らしや、自然と調和したゆとりある郊外での暮らしなど、住まいの多様性が確保された札幌らしいライフスタイルを実現するため、地域の状況に応じた持続可能な交通環境の形成を図ります

■ 実施目標①

自家用車に頼らなくても生活できる持続可能な地域交通環境を形成するため、バス路線の適切な維持に向けた取組などを進めるとともに、ICTを活用した交通情報の提供など公共交通の利用促進の取組を進めます

■ 主な実施施策

- ▶ 地域の移動手段の確保（赤字バス路線の運行に対する補助等）
- ▶ 新たな運行手段（デマンドバス等）の導入検討
- ▶ バス利用者の利便性向上（ロケーションシステムの導入、待合環境の向上等）
- ▶ 「えきバスナビ」の機能向上
- ▶ 公共交通の次世代連携の調査・検討



バスロケーションシステム



バス待合環境の向上

■ 評価指標

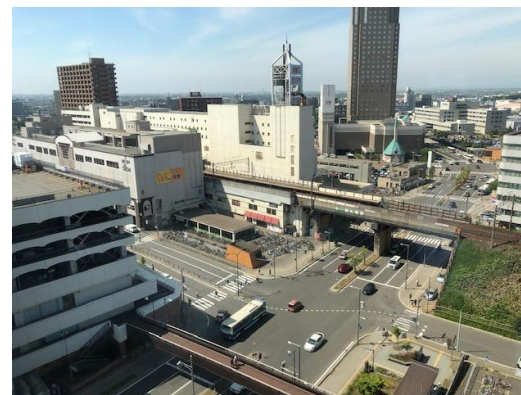
- 公共交通利用者割合（公共交通利用者数/人口）

■ 実施目標②

地域の豊かな生活を支える中心的な役割を担う拠点を形成するため、民間の開発やまちづくりの機会を捉え、安全で快適な歩行環境の確保や乗継・移動環境の向上に向けた取組を進めます

■ 主な実施施策

- ▶ 新さっぽろ駅周辺地区の整備（空中歩廊、地下接続）
- ▶ 篠路駅周辺地区の検討・整備（連続立体交差、駅前広場、区画整理）
- ▶ 真駒内駅周辺地区の検討・整備
- ▶ 清田方面公共交通機能向上の検討
- ▶ 民間開発との連携による交通施設の整備（歩行・滞留空間、空中歩廊、公共交通待合空間等）



新さっぽろ駅周辺地区



民間開発との連携による交通施設の整備イメージ

■ 評価指標

- 拠点における駅乗車人員

交通戦略：交通施策の体系化

都心まちづくりパッケージ

■ 基本方針

都心部においては、通過するだけの unnecessary 自動車流入を抑制し、人を中心とした安全で快適な交通環境を創出するとともに、国内外から活力・投資を呼び込み、北海道・札幌の経済を牽引し、高次の都市機能を持続・発展させる市民活動・経済活動を支援するため、誰もが都心にアクセスできる利便性の高い交通環境の形成を図ります

■ 実施目標①

人を中心とした安全で快適な交通環境を創出するため、誰もが快適に通行できる歩行空間を形成するとともに、自転車や公共交通等による回遊性向上に向けた取組を進めます

■ 主な実施施策

- ▶ 公民連携による地下歩行ネットワークの充実
- ▶ 総合的な駐輪対策の推進（駐輪場整備、放置禁止区域拡大等）
- ▶ 民間開発との連携による交通施設の整備（歩行・滞留空間、公共交通待合空間、共同荷さばき場、観光バス乗降場等）
- ▶ 民間によるシェアサイクルの展開
- ▶ 広場空間や道路空間を活用した賑わいの創出



公民連携による地下歩行ネットワーク
（地下歩行空間と民間ビルの接続）



道路空間を活用した賑わいの創出
（札幌駅前通）

■ 評価指標

- 都心の歩行者交通量

■ 実施目標②

誰もが都心にアクセスできる利便性の高い交通ネットワークを形成するため、公共交通の利便性向上や交通結節機能の強化を図るとともに、都心と高速道路とのアクセス機能強化の検討を進めます

■ 主な実施施策

- ▶ 札幌駅交流拠点の再整備（バスターミナルの再整備や乗換動線の確保、待合空間における情報発信等）
- ▶ 都心アクセス強化道路軸の検討・整備（創成川通の機能強化等）
- ▶ 公共交通施設のバリアフリー化の推進（地下鉄駅、JR駅等）
- ▶ 快速エアポートの増強等による新千歳空港へのアクセス強化



札幌駅交流拠点



地下鉄駅のバリアフリー化

■ 評価指標

- 都心における駅乗車人員

交通戦略：交通施策の体系化

観光まちづくりパッケージ

■ 基本方針

国内外から多くの観光客が訪れる札幌市においては、観光客の滞在・周遊・再訪を促進し、道央都市圏をはじめとした道内の交流人口の拡大を図っていくため、市民・企業、交通事業者、行政が一体となって、多様な旅行スタイルやニーズに対応した利便性の高い交通サービスの提供を図ります

■ 実施目標①

国内外から訪れる観光客の滞在・周遊・再訪を促進するため、都心から観光施設へのアクセス向上など、観光客の受入環境向上の取組を進めます

■ 実施目標②

国内外から訪れる観光客などに分かりやすい交通情報を提供するため、案内表示の多言語化等による利便性向上の取組を進めます

■ 主な実施施策

- ▶ 都心と周辺部観光スポット等を結ぶ交通手段の利用環境の整備（市内周遊バス等）
- ▶ 都心部に乗り入れる観光バスの乗降場・待機場の確保
- ▶ 丘珠空港新規路線の誘致
- ▶ シーニックバイウェイの推進



市内周遊バス運行実証事業



観光バスの乗降場の実証実験の様子（南3条線）

■ 主な実施施策

- ▶ 地下鉄駅の利便性向上（案内表示や券売機の多言語化、Wi-Fiなどによる無料公衆無線LAN環境の整備、トイレの洋式化）
- ▶ ICTを活用した観光客向け交通情報の一元的な情報発信
- ▶ SAPICAの利便性向上
- ▶ 情報提供アプリ「さつちか」の運用による都心部地下の利便性向上
- ▶ 観光案内サインの充実



地下鉄駅の案内表示の多言語化



観光客向け交通情報一元化提供サービス

■ 評価指標

- 札幌観光の満足度および不満足度（観光スポットへの交通アクセス）

■ 評価指標

- 公共交通機関を利用した観光客の割合（札幌滞在中の移動手段）

交通戦略：交通施策の体系化

広域連携パッケージ

■ 基本方針

北海道新幹線札幌開業を見据え、その効果を道内各地に波及させるとともに、道央都市圏をはじめとした広域的な拠点間の連携強化を図り、都市の活力を向上させるため、空港・港湾や鉄道・高速道路など、札幌市と道内・国内外とを結ぶ広域交通機能の確保・充実を図ります

■ 実施目標①

道内の主要都市や観光地のほか国内外の地域と道央都市圏をつなぎ、人や物の移動の円滑化を図るため、札幌駅交流拠点等の交通結節点や丘珠空港の機能強化などの取組を進めます

■ 主な実施施策

- ▶ 北海道新幹線（新函館北斗～札幌間）の建設事業の推進
- ▶ 札幌駅交流拠点の再整備（バスターミナルの再整備や乗換動線の確保、待合空間における情報発信等）
- ▶ 大通・創世交流拠点の基盤整備の検討・実施
- ▶ 丘珠空港ターミナルビル機能拡充・アクセス強化などの空港利用価値の向上
- ▶ 快速エアポートの増強等による新千歳空港へのアクセス強化



■ 評価指標

- 主要駅の乗車人員

■ 実施目標②

周辺都市と市内の拠点相互が有機的に連結し、物流や緊急車両走行の円滑化を図るため、都心アクセス道路の検討など、骨格道路の機能強化に向けた取組を進めます

■ 主な実施施策

- ▶ 都心アクセス強化道路軸の検討・整備（創成川通の機能強化等）
- ▶ 連携道路の検討・整備（屯田・茨戸通、札幌江別大橋等）
- ▶ 環状道路の検討・整備（環状通、五輪通等）
- ▶ 放射道路の検討・整備（国道230号等）



■ 評価指標

- 主要拠点間のアクセス時間

交通戦略：交通施策の体系化

環境負荷低減促進パッケージ

■ 基本方針

環境首都・札幌の実現を目指し、市民・企業、交通事業者、行政が一体となって、公共交通の利用促進や自動車利用の適正化を図るとともに、各交通モードの円滑性や連続性を向上させるなど、持続可能な低炭素型の交通システムの充実を図ります

■ 実施目標①

自動車から公共交通機関への転換を促し、環境負荷の低減につなげるため、公共交通の利用促進の取組を進めます

■ 実施目標②

自動車のCO2排出量の削減を目指し、渋滞緩和対策による交通円滑化等の取組を進めるとともに、次世代自動車の普及促進を図ります

■ 主な実施施策

- ▶ 「札幌らしい交通環境学習」などモビリティ・マネジメントの推進
- ▶ サービス向上に向けた乗車券の企画・発行（地下鉄、路面電車）
- ▶ 子供を対象としたイベントや体験学習の機会の提供（地下鉄）
- ▶ SAPICAの利便性向上



交通環境学習の様子



地下鉄・路面電車の乗車券

■ 主な実施施策

- ▶ 道路拡幅などによる幹線道路ネットワークの機能強化
- ▶ 交差点改良や既存道路空間の有効活用による渋滞対策の推進
- ▶ 幹線道路における重点的・効率的な除排雪の実施
- ▶ 次世代自動車・充電設備の普及促進のための補助の実施
- ▶ 水素ステーション整備のための支援



幹線道路の排雪の様子



移動式水素ステーション

■ 評価指標

- 公共交通に対する満足度および不満足度

■ 評価指標

- 市内CO2排出量（運輸部門）